



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112

広島城北サッカー部での六年間を振り返って

42回生 本藤 宜嗣

みなさんこんにちは！今回この依頼を岩井さん（もう岩井先生かな？）から頂いて、果たして自分で良いのかと思いつつ、読んで頂く皆様何かひとつでも感じて頂く事が出来れば嬉しいなと思いい、寄稿を決意しました！長い文章ですが、最後までお付き合い頂ければ幸いです！

自己紹介が遅れましたが、自分は現役時代、広瀬3兄弟の末っ子孝三郎がキャプテンをしていた時の副キャプテンをさせてもらってました！サブを全力でサポートしようと思いついてはいましたが、ホントにサブには迷惑ばかりかけてしまいました、サブごめん！（笑）そして現在、自分は2年間の浪人生活を終えて、自分の夢である医師になるために、この春から関西医科大学で勉学に励んでいます！さらに関西医科大学サッカー部に入学し、西医体（西日本医科学生体育大会）で優勝するために日々努力しています！しかし、実は4月の中旬まで自分は大学でサッカーをするつもりはありませんでした。理由は具体的には言えませんが、サッカーより自分の人生にとって大切なものがあることに気づき、それに本気になったからです！では、なぜその自分がサッカー部に入学して本気で頂点を目指すようになったのか？その理由のひとつは高校での後悔です。自分たちの代の2年前から2年後までの計5年間で、選手権まで誰も残らなかったのは自分たちの代だけで、さらに自分たちの代の選手権だけ2次リーグに進出していません。個人的には高校1年、2年の両方で、2次リーグという観客もたくさん入った芝のピッチでサッカーをさせてもらいました！それは先輩達が努力して残してくれた財産です！先輩達のおかげで自分達は良い思いが出来たのに、自分達自身は後輩達に何も残してあげることができなかった。とても情けないです。

宮本先生がコラムにも書かれているのですが、2006年4月29日に自分達は総体で崇徳高校に負けました。あつけない終わってしまった、という表現でしか表せない雰囲気でした。試合後のベンチではチームのみんなが泣いていて、試合に出ていた1、2年生には、『先輩、すいません。』と、泣きながら言われ

ました。その瞬間には、選手権まで残ろう、という思いが胸に込み上げてきました。しかし、自分と同じように、みんなにも大学受験という城北生として乗り越えるべき壁があり、3年生各々の家庭状況や周囲の環境なども考えてしまい、自分は高校3年生全員に、『選手権まで残ろう！』と言いたかったけど、言葉に出来ませんでした。せめて、あの日、チームの中心だったサブ、クニ、タマの3人に、『4人で選手権までやろう！』と言うだけは言っておきたかった！今でも後悔しています。

現在、自分が所属している関西医科大学サッカー部は関西医歯薬一部リーグに在籍していますが、残留にはとても厳しい状況です！しかし、チームは希望を捨てることなく戦い続け、努力しています。だから自分も少しでもチームの役に立てるように努力していきたくて考えています！正直なところ、高校での後悔を大学で晴らそうとするのは自分の自己満足でしかないと思います。ただ、前向きに捉えれば、過去の失敗を次に活かそうと考えると考えることもできます！なので、とにかく今は、今しかできないサッカーを一杯頑張ろうと思っています！



次に、広島城北サッカー部から学んだ事についてですが、たくさんある中で、敢えて一つ挙げるとすれば、常にアンテナを張り周囲の環境に気を配り、自主的に考えて行動するという事です。『アンテナ』という表現は、黒瀬先生がよく使われていた表現です。自分なりにアンテナの意味を考えて、場の空気を読んだり、相手の気持ちを考えるようにしています。それは今でも続けていて、一生続けていきたいと考えています！さらに、影響を受けた大下先生と宮本先生という二人の恩師について書きたいと思えます！自分の人格は、この二人から学んだ事が基盤になって形成されているように感じます。二人の性格は全然違うのですが、自分はその両方に純粋に惹かれ、医師を目指し、大学生活を送る今でも二

人の生き方を参考にして毎日を過ごしています！この場面では大下先生だっただろうのかな？とか、宮本先生ならこうするだろうと、無意識に自分の頭で考えて行動していたりします。そして今では、この二人の教師を足して2で割ったような医師になる事が自分の夢になりました！自分は将来的には医師として社会に貢献したいので、サッカーと本気で関われる時間は大学生活しか残されていません！自分の最後のサッカーのキャリアとなる関西医科大学サッカー部での活動を、広島城北サッカー部のモノに負けないくらい素晴らしいものにして、自分のサッカー人生を締めくくりたいと考えています。

最後に、とても拙い文章で、まとまりのないものになってしまいましたが、文頭で述べたように、読んで頂く皆様に少しでも影響を与えたいことができれば幸いです！そして、城北生時代にお世話になり、これからもたくさんお世話になるつもり宮本先生、ナオさん、岩井さん、キクさん、黒瀬先生、大下先生、高山先生ありがとうございます、いつも感謝しています！いつでも飲み会に連れて行ってください（笑）さらに全国で活躍されているOBの皆様、保護者の皆様、これからも城北サッカー部のファンを続けましょう！自分も大阪から、広島城北中学、高校サッカー部の活躍を祈っています！では、また初蹴りの時に最上段でお会いしましょう！

ありがとうー広島城北サッカー部

44回生 高村 拓哉

初めまして！44回生の高村と申します。この度岩井さんが執筆の依頼をしてくださったので、近況報告を含めて今の気持ちなどを書かせて頂きます。

僕はこの春より、大学に入学して東京での新生活を始めました。始めのうちは何もかもが新鮮で、不安な事だらけでしたが、今は一人暮らしにも慣れ、大学生活にも慣れたので、落ち着いた毎日を過ごしています。

サークルは放送研究会という文科系のサークルとESPEREという去年出来たばかりのフレッシュなサッカーサークルに所属しています。このサッカーサークルはユニオンリーグという大学のリーグの二部に所属していて、一部に昇格出来るようにチーム一丸となって日々練習しています。まだまだ他のサークルと比べて伝統はないですが、これから頑張っ

て作っていきたく思います。そしてそこで自分の高校のサッカー部の話をするときに、城北サッカー部の事を話せるのが本当に僕にとって誇りに思います。

広島城北サッカー部では中国大会に出場したり、皆実や観音といった全国でも通用するチームと試合出来たりして本当にいい経験をさせていただきました。また、サッカーだけではなく人としての成長させてくれたと思っています。サッカーを通じてかけがえのない仲間もできました。そんな城北高校サッカー部が今存在するのは宮本先生を始めとする歴代スタッフの方々、城北の土台を作ってくれたOBの方々、城北の先生方、そして保護者の方々のお陰だと思えます。これからもずっと広島城北サッカー部が存続して欲しいと思おうし強いチームになって欲しいとも思います。そのために僕も一人のOBとして出来る限りの恩返しをしていきたいと思えます。

長文かつ下手くそな文章失礼しました。こうして自分の思いを書かせて頂く機会を与えてくださった岩井さんに本当に感謝しています。これからも広島城北高校サッカー部でプレーできた事に誇りを持ち、感謝をしながら日々過ごしていきたいと思えます。それではまた初蹴りの時にお会いしましょう。読んでくださってありがとうございます。それでは失礼します。広島城北最高！！

最上段で学んだこと

44回生 小松 恵大

はじめまして。この春から明治大学法学部に入学しました44回生の小松恵大です。今回岩井さん（岩井先生と呼んだ方がよろしいでしょうか？笑）から執筆を依頼され、僕なんかでいいのだろうか？と恐縮すると同時に大変光栄に思っています。どんなことを書くのかと色々悩んだ結果、僕は「最上段で学んだこと」について書こうと思えます。

僕は中学1年生から6年間を最上段ですごしました。その間、様々なことを学びましたが、中でも最も大きく、大事にしていることが「前向きに振る舞うこと」です。きつと生きていく上で、誰にだっていやなことたくさんあるだろうと思えます。ただそこできつと生きていく上で、誰にだっていやなことばかり言ってもいやなことは増える一方です。何かいやなことがあっても、我慢して我慢して前向きに振る舞っていると不思議と

いいことが起こるものです。

僕は選手権の準々決勝で瀬戸内高校に敗れ、引退しました。やはり負けてしまうと、たとえどれだけ全力を尽くしたとしても、後悔は次から次に出てきて止まりません。受験勉強に切り替えようと思っても、もつとああしておけばよかった、という気持ちが一方向に消えず、もどかしく感じていました。

そんな時宮本先生の最上段のつぶやきが更新されていて、その最後にこんなことが書いてありました。「最後にある小さな喜びを目指し、たくさん悩み苦しむ日々を歩んでいきました。そのすべてが大きな大きなかけがえのない宝物になることを信じて！前向きに！元気に明るくちよつとアホで!!」という言葉です。その通りだと感じました。今あるこの後悔もすべて本気でやったからこそこの宝物なんだ、と前向きにとらえることで僕は次のステップに踏み出せました。いつでも前向きに振る舞う

会長のSAIJODAN SPIRIT

19回生 OB会長 吉川 英司

皆様、こんにちは。この4月に福岡→大阪へ異動(転勤)となりましたOB会長の吉川です。平成元年に入社し約20年たち初めての関西勤務しかも堺支店(南大阪)でどろどろになりながら働いております。今更ながらですが、「サラリーマン給与」を稼ぐというのは大変な事だなくと改めて感じている今日この頃です。福岡時代は会社の「フットサル部」の監督兼選手に多少体を動かしていたのですが、まだまだ、自由になる時間がとれそうにないなと…。

それはそうと皆様、ご存知ですか？我が城北サッカー部のHPが開設され記念すべき第1回目のコラムを。ここで、再確認です。我がクラブの定義を!!宮本監督が言っています。

「広島城北高校サッカー部は、現役チームだけでなく現役チームを支える保護者会・OB会など、広島城北サッカー部に集う人すべてを含むクラブ」と考えます。毎年、1月3日の初蹴りには100人を超えるクラブ員が集まります。(上記の意味の)そこでは、役割分担がしっかり出来ており例えば、審判をするOBや食事を手配頂く保護者会の皆様や即席チームでのキャプテンモドキ。試合進行を考える段取りの良い、城北サッカー部チームスタッフ。

ことはとても難しいことです。どれだけ頑張っても評価されないこともあると思います。けど評価されないのはそれでもまだ努力が足りないからだと、つねに前向きに上を目指している人は、いつか必ず評価されるのだらうと思えます。僕は運よく試合に出ることができましたが、ベンチにも入れない3年生もたくさんいました。それでも前向きに心の底から応援してくれる彼らにほんとうに感謝していたし、尊敬していました。最上段には前向きになれる何かがたくさんあります。それは宮本先生をはじめとするスタッフの皆様や、保護者の皆様、そしてOBの皆様が積み上げてきた城北サッカー部の「歴史」なのだと思えます。

最後まで僕の拙い文章を読んでいただきありがとうございます。世界中でご活躍されているOBの皆様も、常に前向きに最上段パワーを発揮できるよう「俺たち最高！」で頑張ってください。

本当に毎年お世話になりありがとうございます。多分、社会人となったOB達は全国各地にちらばり多忙な正月にこんな集うクラブを知らないのでは??というより、自負できるとは思っています。言いたい事は「いくつになってもクラブ活動を!!」です。ともに、頑張ります。このコラムの第3回目は私自身も本当に頼りにしている、岩井コーチなのです。実は、今年の初蹴り後の「新年会報告会」の前に、宮本監督より呼び出しを受け「内定だけでも、岩井をようやく非常勤で行けそうだ。ただ、岩井の家庭を考えると…」とかなり悩んでいた様子。私は一言「あいつの人生、ようやく枠は出来た。あとは、岩井次第だよ。」その後岩井コーチよりメールが届きました。「無事：お世話に。」吉川「よろしく。」



岩井コーチのコラムより「城北サッカー部というクラブを列車に例えるなら、先頭で客車を引く張るのは機関車である現役チームです。

QPONのひとり言

俺たちの長所は、何か。
自分たちの“強み”を忘れ、“弱み”を補うことばかり考えた。

うさぎを目指した。
俺たちは、かめ。
こつこつ一歩一歩。

総体でやっと取り戻した。
俺たちのスタイル!

『ないもの以外は全部ある!』

ないものに憧れず
あるものに磨きをかける!

そのために

今年の合宿は、
『最上段』で最上段魂入魂合宿
8月13日~16日、OB集合!

“合宿手伝い依頼”連絡のないOBも、
時間があったら参加してください。
参加できる方は、宮本か岩井先生に
連絡してください。よろしくお願ひします。

広島城北高校サッカー部監督
宮本 誠 (19回生)

近況報告

みなさんこんにちは! 24回生の岩井竜彦です。
毎年このコーナーでは、戦績等を中心とした広島城北高校サッカー部の近況報告をしていましたが、今回は趣向を変えて、私自身の近況報告をさせていただきます。

ご周知の方も多くいらっしゃると思いますが、私は今日まで約13年間、広島城北サッカー部のコーチをさせていただいております。学校以外に仕事を持っていましたので、仕事が休みになる週二回、恋蹴や迎夢(広島城北サッカー部では練習のことを恋蹴、ゲームのことを迎夢と呼びます!)に参加していました。これまでは、外部コーチという関わりでしたが、このたびは念願かない、広島城北学園に保健体育科の非常勤講師として採用していただきました。4月から学校に勤務し、サッカー部にもフルタイムで関わらせていただいております。もともと教員志望の自分でしたが、16年間間違った仕事を辞め、非常勤講師になるという選択は、自分と家族にとって非常に大きな決断でした。職場の同僚や上司からは強く慰留されました「この不景気に安定した仕事を捨てるなんて…」というもつともなご意見もいただきました。しかし、自分の中にはまったく迷いがありませんでした。また、妻や家族も不思議なくらい反対せずむしろ強く応援してくれたほどでした。

十数年間ほぼ毎週最上段グラウンドに通い、たくさんの生徒達と過ごしてきた日々の中、私自身もいろいろな経験をし、数え切れないほどの感動をいただきました。そして、一生懸命になればなるほど、生徒たちの成長にもつと深く関わっていきたく、そんな気持ちが自分の中でどんどん大きくなっていくのを感じていました。自分が本当にやりたいことは何かを考え抜いた結果、広島城北学園で教員になるという、ずっと抱いていた希望を今こそ実現する時だ、という結論に至ったわけです。

オールドルーキーとして教壇に立ち始めて、すでに3ヶ月が過ぎましたが、本当に今、充実した日々を送っています。これまではサッカー部の勝利、部員の人的成長を願ってクラブに関わっていましたが、今はそれに加え「広島城北学園の生徒」として、学校全体が明るくエネルギーにあふれた場所になるよう、サッカー部から元気を発信していける、そんな部員が集うクラブにしていきたいと考えています。

そして、“日本一”という大目標実現のため、スタッフと力をあわせ、これまで以上に一層顔晴って(がんばって)いきます。今後とも、広島城北サッカークラブに熱い応援をよろしくお願ひいたします!

広島城北高校サッカー部
コーチ 岩井 竜彦